

「応用薬理」投稿規定（和文）

1. 掲載論文の内容：投稿論文は薬理学全般についての研究を含むが、特に薬物・化学療法剤および生体内活性物質（栄養機能性食品も含む）の薬効（効能）、作用機序、薬理学的機能解析、screening test、計量薬理学 pharmacometrics、薬物動態学および毒性試験・安全性試験などに関するもの、また、臨床薬理学、医療（臨床）薬学（調査研究も含む）、さらに漢方薬理学、漢方治療学など天然薬物に関するもので、日本文または英文のいずれかで書かれたものとする。但し、他の雑誌に発表または投稿中のものは掲載しない。
2. 掲載論文は次の区分とする。
 - 1) 原著 original
 - 2) 速報 rapid communication
 - 3) 総説 review
 - 4) 論説 comment
 - 5) 解説 commentary
 - 6) 実験技術 technical note
3. 著者のうち、少なくとも1名は原則として会員であることが望ましい。
会員には年間5、6冊発行される機関誌を送付する。
4. 動物やヒトの取り扱いにおいて倫理上の問題があると判断されたものは掲載しない。
5. 投稿原稿は別記の執筆規定に従って作成する。
6. 論文の採否は査読者の意見を参考にして編集委員会が決定する。
7. 論文の掲載は原則として受理年月日順に行うが、早急に掲載を希望する場合は、著者の実費負担により特別掲載ができる（8. 投稿料・別刷の項参照）。
8. 投稿料・別刷料
 - 1) 投稿料は刷り上り1ページにつき5,500円、特別掲載は1ページにつき13,000円とする。なお、速報 rapid communication は特別掲載扱いとする。
 - 2) カラー印刷（写真、図版等）は実費を加算する（1ページにつき40,000円）。
 - 3) 別刷りは、1ページにつき25円を請求するので、希望部数を投稿の際に明記すること。なお、300部以上（1ページにつき24円）、さらに500部以上（1ページにつき23円）の場合には割安にする。
9. 原稿の送り先および問い合わせ
 - 1) 応用薬理研究会編集委員会（TEL 022-712-5180）のE-mail : oyyaa2@crux.ocn.ne.jp 宛である。
 - 2) 受理日は原稿到着をもってする。
 - 3) 論文掲載証明書、論文掲載、別刷等についての問合せ先も編集委員会宛とする。
10. 「応用薬理」に掲載された論文、抄録、記事等の著作権は応用薬理研究会に帰属する。

◇原稿執筆の手引き

1. 原稿の作成と投稿の方法

1) 原稿の印刷は、すべてそのまま印刷されるオフセット印刷で行われるので、「日本文原稿の体裁」又は「英文原稿の体裁 (Format of Typed Manuscript)」に従い作成すること。日本文原稿は、原則として明朝体フォント（英文は Times font）を使用し、英文原稿はフォントを Times とする。

2) 投稿は、電子メールによって、下記の要領で行う。

投稿論文の文字化けや図表の不正確化を防ぐために、windows7/office2010 に対応したシステムによって原稿を作成し、併せてその PDF ファイルも送付すること（応用薬理編集委員会：oyyaa2@crux.ocn.ne.jp）。

2. 表題は、できるだけ簡単に、しかも内容を的確に表現できるよう配慮する。日本文の場合、表題、著者名 (correspondence author(s)に*印)、所属、所在地 (郵便番号) を書き、続けて英語で題目 (各単語の initial は大文字)、著者名、所属、所在地 (郵便番号) を付ける。英文の場合、表題、著者名、所属、所在地を英語で記す。また、別紙にトップオーサーおよび簡略化した running title を記すこと。表題および running title の薬物名は、一般名または化学名を用い、商品名、略名、コードナンバーは避けること。
3. 本誌の性格上から、必要ならば化合物の物理的、化学的性状、および構造式を明記し、新規化合物は CAS Registry Number を記す。また急性および慢性毒性試験では、中毒症状などを詳細に記す。
4. 脚注に、*印を付けた correspondence author(s) (複数でも可)、所在地 (郵便番号)、所属、TEL、FAX、E-mail を記す。
5. 論文にはその内容を理解しうる英文 250 words 程度の abstract を題名、著者名の後に付す。また abstract の最後に 5 語程度の Keywords をつける。Keywords は内容を端的に表現する英語を選ぶこと。例えば、試験薬物名 (一般名、化学名、但しコードナンバーはさける)、薬理作用、使用器官 (動物) など (Abstract (著者抄録) 執筆要領および Keywords 選定要領の項参照)。
6. 薬物名は、原則として一般名 (INN、USAN、薬局方名など) の英名を用い、商品名、コードナンバーまたは略号はさける。一般名が未定の場合は、化学名で記載してもよいが、この場合は必ず CAS Registry Number を脚注に付記すること。略名または記号により化合物を表わすときは、必ず初めに完全な名称と対比させ、さらに末尾に対照表で示す。
7. 動物名は片カナで解剖学用語は日本解剖学会制定に従う。
8. Table、Fig.、Photo. の説明はすべて英文で書き、欧文抄録とあわせて読めば、論文内容が大体わかるように留意する。
9. 句読点は“.” (ピリオド)、“,” (コンマ) を用い、また量記号、符号は慣用されているものを用いる。

10. 引用文献は本文中では、筆頭著者名、西暦年号（同一年号のものが2報以上あるときはさらに a,b・・・）を付して引用し、論文の終りに、筆頭著者名の family name の alphabet 順に一括して列記する。記載順は、著者名（全員）、年号、表題、文献名、巻数、ページ（始—終ページまで）とする。雑誌名は、当該雑誌または Chemical Abstracts の採用している略名に従う。単行本は、書名を引用符“ ”で囲み、最後に発行所とその所在地を記す。例を次に示す。

Hirata, Y., Nakahata, N. and Ohizumi, Y. (2009) Identification of a 97 - kDa mastoparan-binding protein involving in Ca²⁺ release from skeletal muscle sarcoplasmic reticulum, *Mol. Pharmacol.*, 57, 1235 - 1242.

Ohizumi, Y. (1998) Search for receptor blocking substances from natural resources and their pharmacological studies. in “Towards Natural Medicine Research in the 21st Century”, ed. by Ageta, H., Aimi, N. Ebizuka, Y., Fujita, T. and Honda, G. pp. 103-112, Elsevier, Amsterdam.

大泉 康, 中畑則道 (1998) ロイコトリエン受容体・トロンボキサン受容体. 『細胞膜の受容体—基礎知識から最新情報まで』, 高柳一成編, pp.287-299, 南山堂, 東京.

11. 謝辞は、本文の文献の前に入れること。
12. Abbreviations は、本文、Table、Fig.、Photo. のなかで用いられる略名・略語を原語と照合して、まとめて論文の最後（文献欄の後）に表示すること（例 GABA, γ -aminobutyric acid;・・・）。但し、通用される量記号などは除く。
13. 脚注は、投稿の手引き規定以外はできるだけ避け、やむをえず使用するときは、規定の脚注につづけて*、**、***……、を用いる。Table、Fig. などの脚注には a、b を用いる。

◇Abstract（著者抄録）執筆要領

著者抄録は、原著の最初に置かれ、論文の内容を的確、簡潔に要約するものである。論文の手引きとして、また、切り離して国内外における情報検索に役立てられ、さらに、最近では国際的抄録誌（Chemical Abstracts など）にも、そのままの形で引用されるようになっている。

下記の事項に留意して、客観的立場で執筆すべきである。

1. 抄録は英語に限り、250 words 程度とし、原則として、文章は改行せず全文を続け、ひとつのパラグラフにまとめる。
2. 英文表題と一緒に掲載されるので、表題の記載事項を繰り返す必要はない。
3. 本文で述べた研究の「目的」「材料」「方法」「結果」特に「結論」を必ず記載すべきである。実験方法も具体的に、条件（動物の種類、数、適用法など）や、重要と思われる数値も記入するのが望ましい。
4. 抄録は、原論文を読まなくとも、単独で明確に理解できるようにすべきであるが、図・

表・構造式や文献は除外する。

5. 国際的に通用する用語を使用し、略語や略号は避ける。ただし頻繁に使用する用語の略語は、初出時に説明して用いること。薬品名は、国際的一般名（INN、USAN など）を用い、商品名やコードナンバーなどは用いない。漢方薬などでは、処方・配合される動植物名・割合・製法などを記載するのが望ましい。

◇Keywords 選定要領

Keywords は、情報検索や情報加工の便に供するもので、研究論文の内容を端的に表す words、または phrases を選定するものである。選定に当っては次の点に留意する。

1. Keywords は英語に限り、5 words(phrases)程度とすること。
2. 英文表題と abstract から抽出すること。
3. 選択の基準は、論文の索引として必要不可欠のものであること。
4. 項目としては次の観点から選ばれる。ただし順序は任意でよい。
 - 1) 研究対象となった物質または薬品の名称（一般名、化学名）や種類。
 - 2) 研究対象となった現象（性状・作用・機能・反応・活性・薬効（効能）など）。
 - 3) 研究対象となった理論・法則・作用・機序など。
 - 4) 研究を実施した実験方法・実験材料（動物・器官名など）・装置など。
 - 5) 研究内容に関するそのほかの重要事項。
5. 用語は名詞形を主体とし、単数形で、冠詞・接続詞は除き、前置詞はなるべく使用しないこと。
6. 用語は元素記号や、一般に使用されていない略号は避けること。
ラテン語の学名はイタリック体で記載し、命名者名は除くこと。

[附記]

本規程は平成 25 年 7 月 1 日より改正する。

〒980-0065 仙台市青葉区土樋 1-10-12
広瀬ニューライフ 1109 号
応用薬理研究会 編集委員会
TEL 022(712)5180, FAX 022(728)6009
oyyaa2@crux.ocn.ne.jp

[注意]

1. 必ず、次の②原稿の体裁および③掲載論文見本もご参照ください。
2. 「応用薬理」に掲載された著作物の著作権は、本研究会に帰属します。

日本文原稿の体裁 (用紙サイズA4)

原則として明朝体フォント (英字は Times font)を使用する。

